

## 無形資産の概念整理と企業パフォーマンスへの影響

宮川 努

### 目 次

1. はじめに—伊藤レポートと無形資産—
2. 無形資産投資の登場
3. 無形資産の種類
4. 日本の無形資産投資
5. 広義の無形資産と生産性
6. 少ない人材投資
7. 補完性の欠如
8. 無形資産と企業価値
9. 終わりに—無形資産投資増加の可能性—

本稿では、「伊藤レポート2.0」において企業評価の重要な要素の一つとして取り上げられた無形資産について、その概念や規模、そして企業パフォーマンスへの影響を考察する。日本は、GDP統計などに含まれている無形資産投資でみると、国際的にも高い水準だが、人材育成投資などでは低い水準にある。無形資産は、企業価値にも反映されていることから、今後は資本市場からの資金調達をより容易にすることで、その拡大と同時に企業パフォーマンスの向上が望まれる。

### 1. はじめに—伊藤レポートと無形資産—

2014年8月に公表された伊藤邦雄一橋大学特任教授を座長とした経済産業省の「持続的成長への競争力とインセンティブ～企業と投資家の望ましい関係構築」プロジェクトの報告書、いわゆる「伊藤レポート」は経済界に大きな反響を呼んだ。特に「日本型ROE経営」を唱え、ROE8%を経営目標とするという提言は、経済界の様々な場で取り上げられることとなった。

一方で、かつての「日本的経営」の良さを取り戻せという議論も見られている。四半期決算開示への抵抗など、復古的な論調が目立つようになってきた。ただし、こうした議論の多くは、高度成長期を懐かしむが如く、かつての「日本的経営」の良さを述べるだけで、変化する国際的な競争状況に対して「復古的対応」がなぜ有効な戦略となり得るのかについて、建設的な提言がされているようには見えない。この様子は、日本的なパスサッカーを標榜したにもかかわらず、ブラジルW杯



宮川 努 (みやがわ つとむ)

学習院大学経済学部教授。1978年3月東京大学経済学部卒業、同年4月日本開発銀行入行。94年同行調査部副長、95年一橋大学経済研究所助教授、97年日本開発銀行名古屋支店企画調査課長、99年学習院大学経済学部教授を経て、現在に至る。2006年経済学博士取得(一橋大学)。15年5月より統計委員会委員(国民経済計算体系的整備部会長)。経済産業研究所ファカルティ・フェロー。